



2019年12月12日一般質問に登壇

12月4日より、令和元年第5回岐阜県議会定例会が開会されました。

今議会では、知事より、総額18億4千万円余の一般会計補正予算案など28議案が上程され審議が行われました。

今議会では、「地域医療」「青少年育成」いずれも県民の皆さまが健やかで安らかに日常生活を送るうえで欠くことのできない問題について一般質問を行いましたので、今回の県政報告では私の質問とそれに対する知事など県幹部の答弁の概要について報告させていただきます。

1 地域医療体制の確保について

私たちの住む西濃圏域では現在、養老町にあります西濃厚生病院と、揖斐川町にあります揖斐濃厚生病院の病床を再編し、大野町内に新病院（仮称：西濃厚生病院）を開設する計画が進められています。

新病院は、今後、人口減少が進行しても十分な診療圏人口を確保できる点や、東海環状自動車道など交通の利便性が良く、医師確保に有利という点などから、大野町に新病院を整備する方向で検討が進められています。

新病院の整備が実現すれば、これまで両病院が抱えていた老朽化や狭隘化といった問題も解消され、地域医療構想に沿った病床の削減と再編も可能になると言います。

このまま人口が減っていけば、今のままの医療を維持していくことは難しくなることから、病院の再編統合に関する議論は避けては通れませんが、自分たちの市町から病院がなくなる。或いは、病院の移転に伴い病院までの距離が遠くなるという計画は、なかなか住民の皆さんに理解を得にくいものです。

そうした状況を踏まえ、地域医療構想に関する議論にもっと県がリーダーシップを発揮して欲しいとの思いから、知事には、両濃厚生病院の再編計画など地域の取り組みへの支援を、健康福祉部次長には、基金を活用した支援を質問しました。

◎古田知事の答弁

今回の再編計画は、地域医療構想の趣旨に沿ったものであり、今後、西濃圏域地域医療構想等調整会議において協議を調え、地域医療介護総合確保基金を活用し、支援していく。

◎堀健康福祉部次長（医療担当）の答弁

基金による支援は、過去に市町村の補助を条件としたものではなく、基本的には、こうした前例を踏襲し、県単独で支援することになる。

2 新たな性的被害から青少年を守る取組みについて

SNSなどで知り合った大人から、脅されたりだまされたりして自分の裸をSNSなどで送られるという「自画撮り被害」というもので、発生が相次いでいるといます。

法律では、児童に裸の画像などを送信させる行為は児童ポルノ禁止法違反にあたりとされていますが、画像を送るよう働きかける行為、いわゆる「自画撮り要求」自体は罪に問われず、容疑者が画像を受け取ってからしか検挙できない状況となっています。

また、「自画撮り被害」とは別に、女子高校生らに制服姿などで接客させる「JKビジネス」についても問題が顕在化しています。

こうした「自画撮り」や「JKビジネス」から青少年を何としても守ろうと、他の自治体では、青少年健全育成条例を改正し罰則規定を設ける動きが広がっていますが、本県の青少年健全育成条例は対応していません。そこで環境生活部長に、条例改正により罰則を設けるなど、積極的な対処を求め質問を行いました。

◎服部環境生活部長の答弁

青少年の新たな性的被害を未然に防止するため、有識者、学校関係者、保護者等で構成する岐阜県青少年育成審議会に、議題として「自画撮り要求」や「JKビジネス」などを取り上げていただき、条例の改正も含め、更なる対策の強化を行っていく。



11月23日、24日東海環状自動車道大野神戸IC～大垣西ICの7.6km区間の開通を目前に控え、開通記念イベントが大野神戸ICを中心に開催されました。